

# リアリズム？

## 0. 始めに

### リアリズム

国家が国力を国力によって追求する弱肉強食の世界。

### リベラリズム

諸アクターが国際的規範によって束縛されながらそれぞれの目標を追及する。

### コンストラクティヴィズム（構造主義）

他者の自分への印象が自分の自分への認識や行動を規定する。

## 1. リアリズムに於ける国家

### 国家と社会の関係

国内で満たされない欲求不満の国際社会への投影。

社会において褒章や懲罰によって奨励される、共同体の拡大に向けた所属者の努力と  
いったものは、制度的に国家のも含まれる。

∴一定領域を支配する「国家」なるものがその領域内に生活する人々にとって同化さ  
れる対象となる。

## 2. 国力の定義

地理：アメリカ大陸

天然資源

食料：イギリス

原料：産業革命と石炭、欧州石炭鉄鋼共同体（変遷）

工業力：コンゴにおけるウラニウム鉱床、全面戦争を支えられる銃後の存在

軍備

科学技術：核と通常戦力。核の交渉材料としての使用不可能性

指導者の能力：ヒトラー、ナポレオン

軍隊の量と質

人口

分布：強国にとっての武器、弱小国にとっての足枷

動向：日本

国民性：

国民の士気：ドイツ WW1 終了時と WW2 終了時、アメリカ孤立主義  
民主制と帝政  
階級分裂

外交の質：後述

政府の質：資源と政策のバランス。資源間でのバランス。国民の支持（避けられないという覚悟、世論の誘導、本質以外での妥協）ダブルスタンダードの困難さ。

典型的な誤り

力の絶対性：国力は相対的

力の永続性：イギリス海軍の優位は WW3 を戦えるか

単一要因論：地政学（東欧）、軍国主義

### 3. 国力はどう現れるか

維持：国家間の序列に影響ない範囲で権力関係を調整しようとする動き

アメリカによるアラスカ。ズデーテンランド割譲、連盟、連合

増大：増大の誘引；戦争、空白

軍事的拡大；侵攻、経済的拡大；石油戦略、文化的拡大；ソフトパワー、VOA

誇示：現実を持っている力を、また持っていると思わせたい力を、他国に印象づけることが目的。外交儀礼と軍事力の誇示。

国家の対外政策はつねに、歴史のある時点で様々な国家間に存在する力関係の評価の所産であるから。

### 4. バランス・オブ・パワー

分割：ドイツは多ければ多いほどいい

代償：ポーランド分割

軍備

同盟

「バランス」

バランス・オブ・パワーの弱点

不確実性：国力の不確かさ

非現実性：自力救済

イデオロギー化：誰にとってのバランスなのか？

不十分性：コンセンサス

バランス・オブ・パワーはなぜ機能しなくなったのか。

辺境の消失

ナショナリズム（民族的普遍主義）の出現による不十分性の確定

## 5. 平和的変更

- 1 世論が自らの考えを自由に表明することができる
- 2 社会的、政治的制度が世論の圧力を吸収することができる
- 3 国家が暴力的変更に対抗して現状を守ることが出来る。

但し、公的制度の全構造の拠って立つ道義的合意という最小限の要請に法秩序が一致するのならばある。これは内乱に繋がる

## 6. 国際社会における平和的変更

制度的問題

民族的普遍主義

## 7. 外交

## 8. 終わりに

当初はリアリズム自体を考える予定だったが、平和的変更を考えることに引き込まれてこのようになった。リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズム共に一長一短だなあと思う今日この頃です。

### 【参考文献】

モーゲンソー著 現代平和研究会訳『国際政治』1986、福村出版